

令和6年度

「運営に関する計画」



幸せを運ぶ
トリーミー

十三の応援団長
とみやん

大阪市立十三中学校

令和6年4月

校訓

純真明朗 敬愛互譲 歓喜力行

学校教育目標

めざすこども像

- ・ 自ら考え行動できる子ども
- ・ 前向きに努力できる子ども
- ・ 心を大切にできる子ども

めざす教職員像

- ・ 範を示す
- ・ 力を合わす
- ・ 共に学ぶ

めざす学校像

- ・ みんなの居場所となる学校

教育方針

生徒の共通理解を深めるため、教職員の研修活動を活発にし、日々の教育活動の場でその実践化を図り、教職員相互の主体性と独自性を尊重する。

- 1 きめこまかな生徒理解を通じて、能力・適性を把握し、生徒一人一人の可能性を最大限に開発する。
- 2 進路指導にあたっては、結果よりも困難を開拓していく努力の過程を尊重するなかで自己決定をさせる。
- 3 相互の開きあった人間関係・人間理解を通じて、共に変容するなかから規律ある集団の育成を図る。
- 4 生命の畏敬と心身の健全な成長をはかるとともに、自発的・能動的な相互協力によって環境の美化と安全に努める態度を養う。

大阪市立十三中学校 令和6 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○学校現状について

・ 予防的な教育実践を体系的に実践することで、安心・安全な教育環境の中で教育活動を進めることができている。特に、望ましい行動を強化するための教育の枠組みである「学校規模ポジティブ行動支援(SWPBS)」の実践により、目標とする行動が明確になり、生徒の望ましい行動を引き出すための強化週間が設けられるなど、日々の生活の中で生徒の「できた・やった」を引き出す機会が増加している。その結果、相対的に課題となる行動が減少傾向にあり、前向きな学校風土と文化が醸成されつつある。また、令和 5 年度からは心の不調を予防するための社会・情動的なスキルを学ぶ「ころあつぶタイム+」も導入され、生徒の心理・行動面への指導・支援の充実にも力を入れている。

学力面では、全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテストの結果が改善傾向にあることが確認されている。これは、基礎学力の定着を図った朝学習の取り組みや各教科における ICT 機器利用の向上など複合的な要因が効果につながったと推察される。

○課題として

不登校生徒が高い水準にあり、心理的困難さを抱えた生徒が少なくない現状がある。これは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会全体の大きな変化が生徒の学び方を変え、漠然とした不安を高める要因になったのではないかと推察される。現在、各生徒のニーズに基づいた切れ目のない支援を行うため、福祉の専門家や大学との連携を行い、より効果的な指導・支援の実施が可能となっている。また、校内不登校支援チームを発足し、定期的な家庭訪問をより安定して実施することで、生徒との「つながり」を大切にする校内支援体制の充実を目指している。また、生徒のいじめに対する意識調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合が 75.8%とやや低い水準となっている。いじめ予防の取り組みを体系的かつ断続的に実践し、より良い生徒集団の形成にも力を注ぐ必要がある。

これらの結果から、令和 6 年度より十三中学校における「めざす子ども像」の頭文字をとった「自・前・心」、「めざす教職員像」の頭文字をとった「範・力・協」に改訂し、個別最適な指導・支援の充実、教育環境の見直し、組織的な教育活動の推進に努め、「みんなの居場所となる」学校としての機能を高めるため、次の中期目標・年度目標の達成を目指す。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。
- ・ 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、82%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より 0.05 ポイント向上させる。

	令和 4 年度	令和 5 年度
国語		令和 5 年度 1 年生 61.1 点(対府比+0.3 点)
	令和 4 年度 1 年生 57.4 点(対府比-1.2 点)	→ 令和 5 年度 2 年生 59.5 点(対府比-0.6 点)
	令和 4 年度 2 年生 59.5 点(対府比-0.1 点)	→ 令和 5 年度 3 年生 62.3 点(対府比+0.2 点)
数学		令和 5 年度 1 年生 55.8 点(対府比+1.8 点)
	令和 4 年度 1 年生 49.0 点(対府比-6.0 点)	→ 令和 5 年度 2 年生 43.4 点(対府比-5.6 点)
	令和 4 年度 2 年生 43.4 点(対府比-5.6 点)	→ 令和 5 年度 3 年生 50.2 点(対府比-2.0 点)

- ・ 令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、55%以上にする。
- ・ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童(生徒)の割合を55%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童(生徒)の割合を、100%にする。
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(基準2)を満たす教職員の割合を、令和7年度末に(基準1 56.4%・基準2 84.9%)にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 毎年度末の校内調査において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。
〔令和5年度 75.3%〕
- ・ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
〔令和5年度 90.3%〕
- ・ 年度末の校内調査における、「子どもの総合的な困り感」の下位尺度について、学校の平均値を先行研究の平均値(12.5%)よりも下回る。
〔校内調査〕〔令和4年度 11.1%〕〔令和5年度 11.4%〕
- ・ 年度末の校内調査における「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を80%以上にする。
〔令和5年度 79.8%〕

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より0.05ポイント向上させる。
〔令和5年度3年生国語+0.05 数学+3.1〕
〔令和4年度2年生国語+0.03 数学+0.6〕
- ・ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル(英検3級相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を55%以上にする。
〔令和5年度 52.4%〕

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・ 教職員の働き方改革に関する目標として、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1・2を満たす教員の割合の基準1を40%以上。基準2を65%以上にする。
〔令和5年度 基準1 38.6% 基準2 62.7%〕

3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式2)

大阪市立十三中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学校にいくのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。〔令和5年度 90.3%〕 本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォンなどを使用して、平均でどのくらい SNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3 時間以上と回答する生徒の割合を 50%以下にする。〔令和5年度 62.5%〕 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 95%以上にする。〔令和5年度 91.9%〕 年度末の校内調査における「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を80%以上にする。〔令和5年度 79.8%〕 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現	
取組内容①【1-1 いじめへの対応 自・前・心 範・力・共】 <ul style="list-style-type: none"> いじめ予防プログラムである「私たちの選択肢」を活用し、1年生では「脱いじめ傍観者教育」、2年生では「ハウレンソウ教育」、3年生では、「多様な性を理解する教育」を実施し、いじめ予防に努める。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。 〔全国学力・学習状況調査〕〔令和5年度 75.3%〕 	
取組内容②【1-2 不登校への対応 自・前・心 範・力・共】 <ul style="list-style-type: none"> SC,SSW、子どもサポートネットなどの専門家や支援者との情報共有会議を月に1回以上実施し、切れ目のない支援を行う。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 〔令和4年度 8.51%〕〔令和5年度 9.11%〕 	
取組内容③【1-3 問題行動への対応 自・前・心 範・力・共】 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの望ましい行動を引き出すための教職員から生徒への賞賛機会の充実を狙った「友情満開キャンペーン」を実施する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「問題行動」の下位尺度の学校平均値が先行研究の平均値(2.3%)よりも下回る。 〔校内調査〕〔令和5年度 1.6%〕 	
取組内容④【1-5 防災・減災教育の推進 自・前・心 範・力・共】 <ul style="list-style-type: none"> 地域の防災リーダーと連携し、防災マップをもとに災害時の注意点と対応について学 	

<p>習する機会を設け、防災意識の向上を図る。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の際に、シェイクアウト訓練を導入し、避難時の行動の細分化と行動の洗練性を高める。 	
<p>取組内容⑤【1-6 安全教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に1回、梅田少年サポートセンターを外部講師として招き防犯教室を開講し、ネットトラブルをきっかけに起こる事件やトラブルについての学習を行う。また、情報モラル教育の年間指導計画を作成し、情報モラル教室について各学年が年に1回実施する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を98%以上にする。 【本市独自調査】〔令和4年度97.8%〕〔令和5年度100〕 	
<p>◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成</p>	
<p>取組内容①【2-1 道徳教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らがかけがえのない大切な存在であると実感できるよう、学校教育活動だけでなく、家庭・地域等との連携を図り、生徒の自尊感情を高め、他者を思いやる気持ちを育む。そのために、校内研究授業を行い教員の授業力向上に努める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を80%以上にする。 	
<p>取組内容②【2-2 キャリア教育の充実 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> SP トランプなど、自己の職業観・適性について探求し、進路実現を図るとともに将来の職業に対する見通しを持つことができるようにするために、3年間を見据えたキャリア教育を実践する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> Hyper Q-Uを活用した校内調査において、3年生の「進路意識」の項目の平均値を13点(65%)以上にする。【Hyper Q-U, 進路意識】〔令和6年度より実施〕 	
<p>取組内容③【2-3 人権を尊重する教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの違いを認め合い、共に成長する生徒集団を育むために、人権尊重の精神をもって指導・支援にあたる教職員の文化と風土を醸成する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度末の校内調査の「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。 	
<p>取組内容④【2-4 インクルーシブ教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援が提供できるように、通常学級の担当者と特別支援学級の担当者と通級指導の担当者が、個別の支援計画や、指導計画などをもとに、連携し、学びの確保をする。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級生徒の実態把握のため、年に4回以上特別支援推進委員会を開催す 	

る。各学年においては、日々、担任の先生を中心に連携をとる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】
◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現
取組内容①【1-1 いじめへの対応】
取組内容②【1-2 不登校への対応】
取組内容③【1-3 問題行動への対応】
取組内容④【1-5 防災・減災教育の推進】
取組内容⑤【1-6 安全教育の推進】
◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成
取組内容①【2-1 道德教育の推進】
取組内容②【2-2 キャリア教育の充実】
取組内容③【2-3 人権を尊重する教育の推進】
取組内容④【2-4 インクルーシブ教育の推進】

次年度への改善点
◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現
取組内容①【1-1 いじめへの対応】
取組内容②【1-2 不登校への対応】
取組内容③【1-3 問題行動への対応】
取組内容④【1-5 防災・減災教育の推進】
取組内容⑤【1-6 安全教育の推進】
◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成
取組内容①【2-1 道德教育の推進】
取組内容②【2-2 キャリア教育の充実】
取組内容③【2-3 人権を尊重する教育の推進】
取組内容④【2-4 インクルーシブ教育の推進】

(様式2)

大阪市立十三中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より 0.05 ポイント向上させる。 〔令和5年度3年生国語+0.05 数学+3.1〕 〔令和4年度2年生国語+0.03 数学+0.6〕 ・ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル(英3級相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を 55%以上にする。【大阪市英語力調査】〔令和5年度 52.4%〕	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上	
取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進 自・前・心 範・力・共】 ・ 基礎学力の定着に向けて、多様な学習体験を統合した小中学校向けの新たな ICT 学習サービス「navima」を活用し、個別最適な朝学習の充実を図る。また、各教科指導においても活用することで生徒の学習習慣の定着に努める。	
指標 ・ 年度末の校内調査における、朝の学習時間に navima を活用した自学・自習を週に 1 回以上実施できた週数が年間の 50%以上を超えている。(ただし、祝日・行事・集会等で実施できなかった場合は除く) 〔令和6年度より実施〕	
取組内容②【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進 自・前・心 範・力・共】 ・ 各教科においてグループ学習や発表機会を設けることで生徒間の言語活動を活性化させ、他者の意見からの学びとともに自身の考えを広げることができる。	
指標 ・ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を30%以上にする。 【全国学力・学習状況調査】〔令和5年度 28.2%〕	
◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成	
取組内容①【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進 自・前・心 範・力・共】 ・ 適切な課題設定や課題の選択肢を自己の能力に応じて決定する機会を設けるなど、個別最適な学習環境を整える。	
指標 ・ 年度末の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】〔令和5年度 52.7%〕	

<p>取組内容②【5-2 健康教育・食育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育講話、保健体育科、家庭科などの学習や長期休業前の健康面の講話などを通じて、規則正しい生活習慣を身に着けるとともに朝食をとる習慣を高める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。【全国・学力学習状況調査】〔令和5年度 89.2%〕 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】
◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上
取組内容①【 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進 】
取組内容②【 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進 】
◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成
取組内容①【 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進 】
取組内容②【 5-2 健康教育・食育の推進 】

次年度への改善点
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】
◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上
取組内容①【 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進 】
取組内容②【 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進 】
◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成
取組内容①【 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進 】
取組内容②【 5-2 健康教育・食育の推進 】

(様式2)

大阪市立十三中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 <p style="text-align: right;">【本市独自調査】〔令和6年度より実施〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1・2を満たす教員の割合の基準1を40%以上。基準2を65%以上にする。 <p style="text-align: right;">〔令和5年度 基準1 38.6% 基準2 62.7%〕</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進	
<p>取組内容① 【6-1 ICTを活用した教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報教育研修会を実施し、ICT活用に関する基礎的な知識の向上に努める。 百問繚乱を普及させ、採点業務の省力化を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報委員会主催の学習者用端末の活用方法にかかわる研修会を年に1回実施する。 <p style="text-align: right;">〔令和5年度 1回実施〕</p>	
<p>取組内容② 【6-1 ICTを活用した教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学活で心の天気の入力をさせ、生徒のメンタルヘルス面の現状把握に努める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールライフノートのアクセス率について75%以上にする。 <p style="text-align: right;">〔令和5年度 36.0回実施〕</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を50%以上にする。 <p style="text-align: right;">〔令和5年度 37.8%〕</p>	
<p>取組内容③ 【7-1 働き方改革の推進 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動指導員の配置を進め、部活動指導における時間の加算を抑え、学校業務に従事する時間の捻出に活用する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日の「部活動指導員配置後の、部活動指導に関わる時間の変化」について「減った」とする旨を回答する顧問教員の割合を70%以上にする。 <p style="text-align: right;">【本市調査(部活動指導員配置部活動の顧問教員アンケート)】</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】
◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
取組内容① 【6-1 ICT を活用した教育の推進】
◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり
取組内容② 【7-1 働き方改革の推進】
取組内容③ 【7-1 働き方改革の推進】

次年度への改善点
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】
◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
取組内容① 【6-1 ICT を活用した教育の推進】
◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり
取組内容② 【7-1 働き方改革の推進】
取組内容③ 【7-1 働き方改革の推進】

(様式3)

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立十三中学校 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標ごとの評価

年度目標：
年度目標：

3 今後の学校園の運営についての意見

--